

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は107円台では底堅く、堅調な推移か

[3月8日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		3月1日～3月5日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	106.56	108.21(5)	106.37(1)	108.13	+1.56
ユーロ・ドル	1.2070	1.2113(3)	1.1952(5)	1.1956	-0.0119

=====

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	28,864.32	-101.69	日本10年債利回り	0.091	-0.071
ダウ平均株価	30,924.14	-8.23	米10年債利回り	1.564	+0.159

=====

<来週の主要経済統計等>

- 7日 中国貿易収支 (年初来)
- 8日 日本1月経常収支  
日本1月景気動向指数  
スイス2月雇用統計  
独1月鉱工業生産指数
- 9日 日本1月勤労者世帯家計調査  
日本第4四半期国内総生産 (GDP) 2次速報  
独1月貿易収支、独1月経常収支  
ユーロ圏第4四半期域内総生産 (GDP) 確報値
- 10日 中国2月消費者物価指数、中国2月生産者物価指数  
米2月消費者物価指数  
カナダ銀行 (BOC) 政策金利  
米2月財政収支
- 11日 欧州中央銀行 (ECB) 政策金利  
ラガルド ECB 総裁記者会見  
米新規失業保険申請件数
- 12日 英1月鉱工業生産指数、英1月製造業生産指数、英1月貿易収支  
独2月消費者物価指数確報値  
ユーロ圏1月鉱工業生産指数  
カナダ2月雇用統計、カナダ1月卸売上高  
米2月生産者物価指数  
米3月シガン大学消費者信頼感指数速報値
- 13日 米国夏時間入り

【前回のレビュー】ドル円は2月25日には106.40近辺まで上昇して、その後は106円近辺で推移している。ドル円は底堅い動きを見せているものの、106円台を固めてさらに大きく上値を迫るような力強さはなく、上下に振幅を見せながら105～106円台でもみ合いを続けるとした。

【米長期金利の上昇に左右されやすい展開】

米長期金利の動向に市場が振り回される展開が続いている。米長期金利の上昇や金利の先高観は米株安やそれを受けての世界的な株安につながる傾向があり、不安定で荒れた展開を見せている。特にハイテク関連株やナスダックの下げがきつい。ナスダックは3月4日の下げで、年初来の上げ幅をすべて失った。

米金融当局者は米長期金利の上昇をけん制せず、静観する傾向がみられる。2月23

日の米連邦準備制度理事会（F R B）のパウエル議長の議会証言では、米長期金利上昇については「成長とインフレの見直しによるもの」と述べるにとどまっており、特別な警戒感を示さなかった。その後の地区連銀総裁の発言でも、利回り上昇をけん制するような発言はあまりみられなかった。

こうした中、2日にブレイナードF R B理事は「経済は依然として目標から程遠い。行動が必要」「見直しにはかなりの不確実性がある」「市場の動向にはかなり注意を払っている」などと述べた。また、債券を買い入れるペースを減速させるには「しばらく時間がかかる」との見解を示すなど、米長期金利の上昇には慎重に注意を払う姿勢を見せた。

4日にパウエルF R B議長は、米債券市場について「秩序のない市場環境になれば問題視するだろう」と述べたものの、米金利急上昇に対する具体的な対応策には言及しなかったことで、市場では失望感が広がった。市場では何らかの対応策を示唆するとみられていただけに、発言後に米10年債利回りは1.56%台まで大きく上昇した。米長期金利の上昇を受けて、米国株は売りに押されてN Yダウは345ドル安、ナスダックは2.11%安といずれも大きく下げた。

米10年物国債利回りは2月25日に一時1.61%近くまで上昇したものの、その後はやや落ち着きを見せ、2月26日に1.40%を割り込んだ。その後は1.40%近辺でもみ合いが続いて、3月3日には1.48%前後まで上昇している。パウエル議長の発言を受けて、4日には1.56%台まで上昇した。

米長期金利の上昇や先高観がドル円の上昇を支えている。ドル円は2月23日に105円台を回復した後は上昇基調で推移しており、3日の海外市場で107円台前半まで上昇した。その後も上昇基調で推移しており、4日には108円目前まで上昇して、5日には一時108円台に乗せた。

昨年の秋口から昨年末までは米長期金利とドル円は連動性が乏しくなっていた。今年に入ってから連動性が高まっており、米長期金利の上昇がドル円の上昇につながりやすくなっている。今後も米長期金利の上昇期待はドル円には支援材料となろう。株式や為替市場は米長期金利の動きに振り回されているものの、ドル円は107円台では底堅く、堅調な推移が続けるとみられる。ドル円の目先の予想レンジは、106.00～109.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、8日に日本1月経常収支、日本1月景気動向指数、9日に日本1月勤労者世帯家計調査、日本第4四半期国内総生産（G D P）2次速報、10日に米2月消費者物価指数、米2月財政収支、11日に米新規失業保険申請件数、12日に米2月生産者物価指数、米3月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。なお、13日に米国が夏時間入りする。

#### 【ユーロドルは上値重く推移か】

米長期金利が上昇傾向にあるため、ドルが堅調な動きを見せており、ユーロドルは上値の重い展開となっている。ユーロドルは2月25日に上ヒゲのローソク足となり、翌26日は長い陰線となった。その後は1.20台を中心とするもみ合いが続き、4日には1.20ドルをしっかりと割り込んできた。

11日に欧州中央銀行（E C B）理事会が開催される。金融政策は据え置きの見通し。最近の利回り上昇に関しては、理事会のメンバー間でも対応に関して温度差があると報じられている。利回り上昇をけん制するような発言もあれば、パンデミック緊急購入プログラム（P E P P）の枠組みの中で債券買入れの増額で対応が可能といった意見もある。理事会やその後のラガルド総裁の記者会見で、何らかの見解を示してくる可能性がある。ただ、今回は口先でけん制はしても具体策までは踏み込まないとみられる。

ドイツやユーロ圏の経済指標はまちまちながらも市場予想を上回る結果を見せているものもある。ただ、ドルの堅調さの前にはユーロ買いの動きは限定的となっており、ユーロドルは軟調な推移が続いている。ユーロドルは上値の重い推移が続いて、もみ合

いながら下値を探る展開となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1800  
～1.2125ドル

日米以外の今後の経済指標やイベントは、7日に中国貿易収支（年初来）、8日にス  
イス2月雇用統計、独1月鉱工業生産指数、9日に独1月貿易収支、独1月経常収支、  
ユーロ圏第4四半期域内総生産（GDP）確報値、10日に中国2月消費者物価指数、  
中国2月生産者物価指数、カナダ銀行（BOC）政策金利、11日に欧州中央銀行（E  
CB）政策金利、ラガルドECB総裁記者会見、12日に英1月鉱工業生産指数、英1  
月製造業生産指数、英1月貿易収支、独2月消費者物価指数確報値、ユーロ圏1月鉱工  
業生産指数、カナダ2月雇用統計、カナダ1月卸売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。